公開シンポジウム

長生きを喜べる社会へ

～日本の挑戦と科学の役割～

日　時：令和 8 年 12 月 14 日（月）13：30 ～ 16：00

場　所：Zoom ウェビナーによるオンライン開催

開始時刻になりましたら、以下のリンクよりご参加ください

Zoom ウェビナー：開催日の数日前に、こちらの欄に追記いたします

一般参加可、事前申し込み不要、参加費無料

趣　旨：超高齢化が進む我が国において、誰もが取り残されず、障害を有しても社会で安心して生き生きと生活・活動できるよう、生活機能を包括的に捉える視点と環境因子への働きかけが必須である。老化分科会においては第 21 期から、提言、見解を発出してきたが、それらがどのようなインパクトを社会に与えたかについては検証できていなかった。今回、第 26 期の老化分科会においてこれまでの意思の表出による影響を調査し、報告としてまとめた。本シンポジウムでは、これまでの意思の表出を振り返るとともに、今後の高齢社会における課題や、より多くの方面への周知、意識の醸成のさらなる工夫について議論する。

◇総合司会：飯島　勝矢

（日本学術会議連携会員／東京大学高齢社会総合研究機構機構長／東京大学未来ビジョン研究センター教授）

13:30　　開会の辞：荒井　秀典（日本学術会議第二部会員／国立研究開発法人国立長寿医療研究センター理事長）

【第１部】超高齢社会の課題　13：40～14：40

『老年医学的内容を中心に』

秋下　雅弘（日本学術会議第二部会員／地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター センター長）

『社会福祉の視点から』

和氣　純子（日本学術会議第一部会員／東京都立大学大学院人文科学研究科教授）

【第２部】老化分科会からの「報告」に関して　14：40～15：20

『今回の意思の表出にあたって：その狙い』

荒井　秀典（日本学術会議第二部会員／国立研究開発法人国立長寿医療研究センター理事長）

『「報告」の概要』

飯島　勝矢（日本学術会議連携会員／東京大学高齢社会総合研究機構機構長／東京大学未来ビジョン研究センター教授）

【第３部】総合討論　15：25～15：55

司会：荒井　秀典（日本学術会議第二部会員／国立研究開発法人国立長寿医療研究センター理事長）

＜論点＞①高齢社会における課題：今まさに何が重要かつ深刻か　～それに対する打開策の切り込み方とは～

②より多くの方面への周知、意識の醸成のさらなる工夫　～そのために領域横断で何ができるのか～

＜参加登壇者＞和氣　純子（日本学術会議第一部会員／東京都立大学大学院人文科学研究科教授）

西　希代子（日本学術会議連携会員／慶應義塾大学大学院法務研究科教授）

野口　晴子（日本学術会議第一部会員／早稲田大学政治経済学術院教授）

山田　あすか（日本学術会議連携会員／東京電機大学未来科学部建築学科教授）

秋下　雅弘（日本学術会議第二部会員／地方独立行政法人東京都健康長寿医療センターセンター長）

15:55　　閉会の辞：飯島　勝矢（日本学術会議連携会員／東京大学高齢社会総合研究機構機構長／東京大学未来ビジョン研究センター教授）

主　催：日本学術会議臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同老化分科会、臨床医学委員会

後　援：日本老年学会/一般社団法人日本老年医学会